

医学研究科

| 学生の確保 (人) | 年次 | 定員 | 志願者 | | 受験者 | | 合格者 | 入学者 | |
|----------------|-----------|----------|-----------|----------|----------------|------------|--------|-----|-----|
| | | | 学内 | 学外 | 学内 | 学外 | | 学内 | 学外 |
| 1年次 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) |
| 3年次 編入学 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) |
| 学位授与数 (人) | 博士課程修了 | | | | 論文博士 | | 博士課程修士 | | |
| | 修了年次定員 | | 修了者数 | | 授与数 | | 授与数 | | |
| | 43 (38) | | 63 (59) | | - (8) | | - (-) | | |
| 学生の研究活動 (件) | 論文・著書発表数 | | 学会発表数 | | | 受賞・表彰等 | | | |
| | 129 (123) | | 243 (213) | | | 5 (4) | | | |
| 学生の進路 (人) | | 教員 | 企業 | 公務員 | 研究員 (学術振興会) | その他 | | | |
| | 修了者 | 2 (3) | 4 (6) | 5 (1) | 15 (15) | 37 (36) | | | |
| | 退学者 | 1 (1) | - (1) | - (-) | 4 (-) | 2 (7) | | | |

・論文・著書発表数については、英語論文に限る。

・() は前年度の数値を、 は外国人留学生を内数で示す。

1 医学研究科の活動

- (1) 優秀英論文の顕彰を行った。応募論文の中から、2件の優秀論文賞を選定し、教員会議の席上で、賞状を贈呈した。
- (2) 学則第70条第3項ただし書きの適用を積極的に推進し、4名の学生を早期修了させた。
- (3) 人間総合科学研究科の医学系5専攻と協力して、教育研究経費の重点配分を行い、研究環境の整備を推進した。特に、医学学系棟の大学院生オフィスの整備を行い、学生の居住環境の改善に努めた。また、医学専門学群棟411室をセミナー室として整備した。
- (4) 人間総合科学研究科と協力して、医学系の共通実験室の老朽化した備品の整備に努めた。

2 教員の教育業績評価の状況

昨年に引き続き、研究科の改組の伴う教員組織の整備のために、新任の教員や本研究科を担当していない教員のうち、本研究科で十分な業績を持つと評価された教員を「人間総合科学研究科」の設置審議会に諮り、医学系の教員の大学院担当資格の見直しを行ってきた。また、2年次の終了時に、複数の教員による学位論文の中間評価を行い、研究指導の多角的な検証を行ってきた。さらに、中間審査の公開発表会を行い、学生の学位に向けての取り組みの一助とした。

3 自己評価と課題

本研究科に在籍する学生の研究発表はたいへん活発であり、過去数年間にCELLやScience誌など、国際的な一流誌への論文発表が相次いでいる。また、医学地区では、ブレインサイエンスセミナーや分子生命科学セミナー、免疫学セミナーなど、本研究科の学生も自由に参加できるセミナー・講演会が、学内外から新進気鋭の講師陣を招いて毎週のように実施されており、新しい知識を得るための環境は整備されつつある。さらに、過去数年間に、遺伝子構造解析室や共通実験室の整備が進み、本研究科の学生が最新鋭の機器を駆使して先端生命科学研究を実施できる体制が形成されている。現行の医学研究科に在籍するのは、4年次の学生であるが、これらの学生の研究成果が今後の本学医学部門の業績に直結するので、引き続き、活発な研究科運営が求められている。

一方、本研究科の学生が研究活動を実施する医学学系棟などの実験室は、一様に狭隘であり、また、老朽化が進んでいる。医学研究科の学生のための研究スペースの確保は重要な課題であり、引き続き、研究室の有効利用に努める必要がある。また、本学のめざす「研究大学」の実現に向けて、本研究科の学生に、先端研究への志向性と大学院研究の重要性を積極的に啓蒙して行く必要がある。